

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778 長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No. 282

2019.12/18 (水曜) 17:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期継続大型地震推定前兆 続報 前兆の終息と継続から最も早い時期の可能性としては2020年1月14日±の可能性が考えられます 但し12月30日±1日に前兆終息が観測された場合に限る

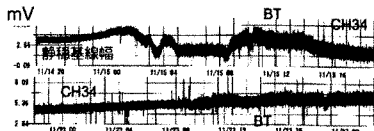


図1：CH34の基線幅増大BT変動
上波形11/15初現時期と、一度静穏化した後、再出現した下波形。午前09時前後にBTの変化が見られる。1778の推定発生時刻に近似。

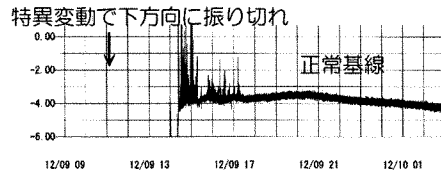


図2：秋田観測点A1観測装置に10月22日から継続していた特異変動が12月09日14時過ぎ終息し、正常基線に復帰した様子

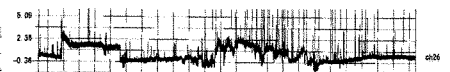
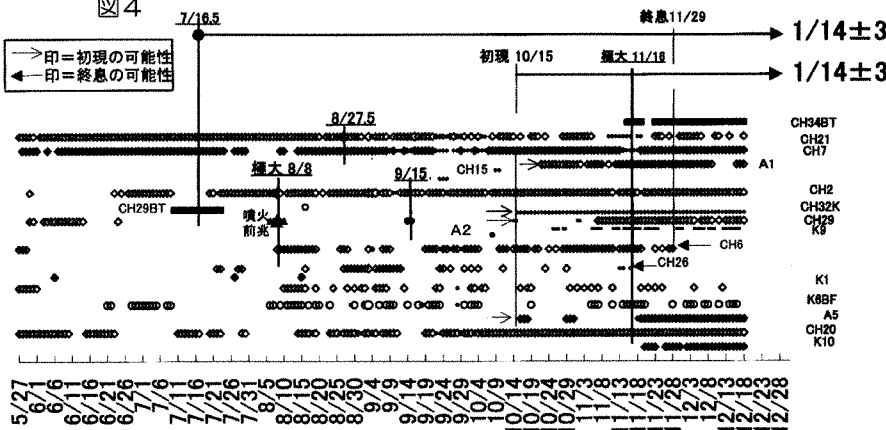


図3：遠隔観測点に同期出現なく八ヶ岳南麓天文台のみに観測されたCH26の火山噴火型前兆変動と火山近傍地震前兆変動の中間的変動。多数観測されている。全観測点同期出現でない場合は、変動が観測された観測点に近い火山の近傍での地震または変動が継続した場合は噴火。

前続報では最も早い場合の発生推定時期として12月25日±の可能性も若干否定できないことを報告。高知観測点のK6観測装置に伊豆局によるBF変動極大が11月16日に観測されました。図1は八ヶ岳南麓天文台のCH34の基線幅BT変動出現時の基線です。CH34BTは11月16日を中心に出現し、一度静穏化した後11月23日の午前09時頃から再出現し継続中です。明らかに11月16日極大に対してBTが出現したことが判ります。図2は本年10月22日から特異変動が継続していた秋田観測点A1観測装置の基線が12月09日正常基線に復帰した様子です。10月22日～12月09日期間集中出現し、中心は11月16日となります。このことから秋田観測点A1も11月16日極大を中心集中出現したと認識され、どちらも11月16日極大に関する前兆変動と認識されます。A1特異の初現は10月22日です。極大前後に出現するBTは極大に対する前兆群の初現からしばらく経ってから出現することが多いため、11月16日極大前兆群の初現は10月22日以前にあったこととなります。仮に10月22日初現～11月16日極大で経験則を使用して計算しますと01月01日±となりますので、12月25日±は否定されることとなります。A5特異・K9ステップBF・CH32櫛歯変動が10月15日から揃って出現しだし継続していることから、10月15日初現・11月16日極大の関係の可能性を考えました。また07月16.5日極大に対し、CH06が11月29日に終息した関係も、両方とも図4内に記したとおり、最も早い場合の発生の可能性は01月14日±3の可能性を示します。但し、これが正しい場合には11月16日極大に対し、12月30日±1に前兆変動の終息が観測されることが計算できますので、これが確認できないと確定はできません。続報でご報告致します。参考ですが、図3は火山噴火型前兆変動（通常は数時間の変動）と火山近傍地震前兆変動（通常は20分以下の変動）の中間的変動（波形は火山噴火型とは異なる）で多数観測されています。08月06日～10日に浅間山又は草津白根山の火前兆変動過去例と同形の変動も観測されています。（08月07日と08月25日の浅間山小規模噴火は別に各々5日前に噴火型前兆変動観測）変動出現から数ヶ月経つため、地震発生と相前後して噴火に到るかは不明ですが、No.1778が浅間山又は草津白根山の近傍での大型地震である可能性が高いことを示していると考えられます。

No.1778 Stage-25 後半 2019年5月末～12月



- ◆推定領域：図5の斜線領域（複斜線＝可能性が考えやすい参考推定領域）
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息後計算予定 但し、最も早い場合01月14日±3の可能性有
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震 火山近傍領域の可能性考えやすい（地震発生と相前後して浅間山or草津白根山で噴火が発生する可能性否定困難）
- ◇推定地震発生時刻：午前09時30分±01時間30分 または午後05時±03時間

